

厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和4年8月26日(金)
14時35分開会 15時08分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：口田邦男 副委員長：山下清美
委 員：深沼達生、川上 均、中河つる子、高橋政悦
議 長：桜井崇裕
- 4 事務局 事務局長：田本尚彦、事務局次長：川口二郎
- 5 議 件
(1) 所管事務調査について
(2) その他
- 4 会議録 別紙のとおり

委員長（口田邦男）：大変お疲れのところありがとうございます。只今より厚生文教常任委員会を開催する。案件についてはお手元の所管事務調査についてのまとめである。所管事務調査報告書について、皆さんに確認していただきたいと思う。意見があれば申し出ていただきたい。

（1）所管事務調査の実施について

委員長：皆だいたい内容を把握していると思う。確認であるので何か意見があれば出していただきたいと思う。

高橋委員：新体育館のことであるが、最後の方に交流人口の増加など過大な振興策への期待は不要でありって誰が言ったのか教えてもらえるか。この委員会の今までの中で全く真逆なことだと思うが。例えばこの文章からいくと、上富田町の方は南紀白浜があったりしてそういうことができるのだと、清水は無理だからそんな必要はない、清水町民だけのためにスポーツの場を作ればいいというような内容になっているけど、そしたら清水は上富田とは全然違うからそういうことはできませんという理由探しに研修に行ったように感じるし、こんなことを文章にするっていうのはナンセンスだから。はっきり言ってこれは違うのではないかと思うがいかがか。

委員長：文言であるが、不要という言葉が極論すぎるとの事だが。

高橋委員：不要がいい悪いではなくて、当然のようにまとめた委員長、副委員長がそれを理解してやっていると思うが。不要であると言った理由が知りたい。なぜあそこまで行っていいねいいねと言っていたことに関して、そんなことは不要だとはっきり言えるのかということを知りたい。

委員長：何かご意見あるか。

川上委員：この部分については特に今まで議論した中では出てきていなかったような気がする。ちょっとこの部分についてはもう一度議論する必要があるのかなと思う。

中河委員：確かに話し合いの中では出てきてなかったというふうに思う。交流人口の増加、そして町民のスポーツ振興につないでいけば、過大な振興策への期待は不要であるという文言がちょっと話し合いの中で出てきたものではないような気がするので、そこを取り除けば話し合いの中で話し合われたようなふうに思うが。

深沼委員：新しい体育館が整備されることによって、前向きな形での考え方がいいのかなど。その中でも町民のスポーツ振興と健康増進のためにそういった形で体育館などを今までどおり活用する部分と、せっかく新しい体育館ができるということは、これから50年、60年その体育館を使うわけだから、公認された範囲の大きさの部分の施設というのは、最低限必要ではないかなという部分では考えていた。

山下委員：前回の委員会の中では、上富田みたいな形の振興は特別だという話は出ていた。交流人口の増加も期待される中で、特に町民のスポーツ振興と健康増進といった部分については、特に重要だというふうに話をされていたような気がする。不要というよりはそういった部分も期待される中で町民のスポーツ振興と健康増進のために必要な機能という部分を十分検討していくことが必要だという部分になるのかなという気がする。

委員長：不要という文言はちょっとどうかなというふうに受けている。もう少しこの表現を極論でなく柔らかい感じで表現したらどうかと思うがいかがか。

高橋委員：この委員会で色々な話を聞いた中で全く方向が違う総括になっていないかなという気がする。新体育館建設にあたり、色々な住民委員会なんりの見解を聞いた中で、最終的に動いている方向にそっくり。清水町民だけのための体育館みたいな。他の利用する団体とかはテンションだだ下がり、そんなんなら体育館いらなくらい行政の方向性は認められていない。他の利用することのない町民にしてみたらそれでいいのかもしれないけれども、なるべく安くそこそこ使える、災害の時には避難できる場所、そんなイメージしかないのかもしれないけど、少なくともこの委員会で最初から進めていた内容は全然こんな内容ではなかったような気がするのだが。まさしく今の行政のやろうとしている新体育館建設に肩入れしているような内容であるし、全然こんな所管事務調査の意味がないのではないかと思うし、こんな報告書を議会で提出するのであれば、はっきり言って提出者の中に名前を入れたくなくらいの内容になっていると思う。どうしてこんなことを言い始めたのかということを知りたい。

山下委員：報告がどうだという部分。見てきたらそのままやるという部分でいいのかということのはよく考えなくてはいけないと思う。今回の所管事務の中では町の現状も調査した中で、上富田の状況を把握してきた。そういった中で常任委員会としてどういう方向性というか、町としてこういうことを検討してほしいという報告になる必要があるのかなという気はする。そしてこの委員会で調査して、個人個人でも考えを持っているし、個人個人で色々な話も聞いている部分があると思うので、そういった部分については全てが全てそういった方向になるのは難しいのかなと。色々なものを総合した中での報告書。しっかりと話として判断してもらいたいという報告書の方がいいのかなという気はする。

川上委員：とということはこの内容でいいということか。山下委員は。

山下委員：今言われたその内容でいいという部分ではなくて、色々な部分を総合した中でそれはしっかりと判断してほしいという部分の提案がいいのでは。不要という部分は言葉としてはおかしく感じられるかもしれないが、交流人口の増加も期待される部分があるし、新しい体育館も建てるから振興策にも期待はされるといった部分も含めた文面になってくればいいのかと思う。

川上委員：この内容は改めて議論しているわけではないので、それぞれの委員の報告から出てきたやつをそのまま網羅的に載せたのかなというのわかる。ただ、先ほど高橋委員が言ったように、当初から何回か議論した中で関係団体、特に体育協会あたりからはかなり交流振興も含めたものを作ってほしいという希望が出ていた中で、1月の所管事務調査の中では、そういうことも加味した中で検討していくという所管事務調査の報告があった。その内容からすると大きく外れる内容となっているのはいかがなものか。そして交流振興を図るか図らないかという事は非常に大きな意味がある。それによって体育館のコンセプトが全然変わってくる。そういう部分ではもうちょっと議論する必要があると思う。

桜井議長：検討委員会等の町民主体の意見を十分に考慮した建設にしてほしいというのがあるだろうし、今回所管事務調査で見てきていい点悪い点あるだろうし、合う部分、合わない部分もあると思うので、その中でちゃんとしたものを報告して出せばいいと思う。

高橋委員：要は、不要だといった文章になっているということは、その意見があったわけで、その人の気持ちを知らない。それが後ろにいる町民の皆さんの意見でもあるのだから、はっきり言ってなぜこれを議題にして所管事務調査をやったかと言ったら、一大イベントである。20億も30億もかかる、町の予算も使って建てる。それを失敗しないようにと思って、より多くの利用者、周りの町民がうまくそこを利用できる仕組みを作ろうと、そういうつもりで色々なことを拾い上げるのに本州まで行ったり、色々な話を聞いたりしていた。それなのに結論として環境的に何もできないのだから、だったら町民だけのことを考えて格安で済ませようというような報告書を出すのって、そんな馬鹿な事あるの

か。時間かけて結局できないできない、その理由探しただけにならないか。ましてや執行者側でない我々委員会が、可能性を求めて色々なことを見てきたりしたのに、その報告書がこれって、金返せって言われると私は思う。こんな状況でした、でも結果的にうちでは無理なので、自分たちのことだけ考えてやりましょうっていうような報告書。さすがにそんな報告書には名前を連ねることはできないということだけしておく。

山下委員：今回の調査の目的については、体育館の建設にあたってどういう方向がいいのだろうかという調査をしようということでは始まっていると思う。この体育館をどうなさいたいという方向で所管事務調査をやったという部分ではまた別なのかなと、どういう体育館にしたいという思いはそれぞれに持ちながら体育館をどういう方向にするか、スポーツ振興によるまちづくり、こういった部分をこういったものにするかという検討材料として今回調査するという意味でとらえていたような気がする。

委員長：どうする。内容ちょっと見当するか。

山下委員：総括の部分は文章として検討するようにしては。

委員長：色々なご意見が出たが、再度文面については検討させてもらって、後日ご意見を頂戴したいと思うがいかが。

川上委員：いいとは思いますが当初、今回の調査の目的の中で、アイスアリーナでアイスホッケーを利用した交流人口や移住者の確保に寄与しているということ。取り組みの状況の中でもアイスアリーナの現状と今後の活用とともに、新体育館についての町の考え方が明確になっていないと感じているという部分では、アイスアリーナの現状と今後の活用も含めて、そして交流人口を増やしていくという部分も含めて推進していくという最終的な総括にしてもらいたいと思う。

委員長：委員長、副委員長で検討させてもらって、たたき台をつくるので、また再度お願いします。

高橋委員：文言云々というか、その前にメールで配信されたまとめの中に私の発言で、万が一にもこの体育館が幅広さを持たないというか、そういうことがなくなってしまうことが懸念されるから、それだけは回避したいというような言葉が書いてあったにもかかわらず、その真逆の言葉を書いてきたわけで、まとめた方、その意図が知りたいし、何でこんなことを書きだしたのか。なんだったら納得するののかという話ではない。こういう理由でこういう言葉にしたからそれに対抗してきなさいというならわかるけど、認めないんだったら、そんなことを言っているのではない。ちゃんとした意見として聞きたいだけの話で、これはちょっとひどすぎるからやんわり行きまじょうじゃない。そうじゃなくて、この言葉にも意味があってこういう言葉を選んだと思う。だったらその言葉の意味を教えてほしいということ。

委員長：それらも含めて後日また。今日は締めて後日にする。以上で厚生文教常任委員会を終了する。

【閉会 15:08】